

大堀川河口 ナガエツルノゲイトウ・オオバナミズキンバイ分布調査

- ・日時／2020年9月17日（木） 9時30分～11時30分
- ・集合／北柏ふるさと公園駐車場
- ・調査場所／大堀川河口 北柏ふるさと公園地先
- ・参加者／県立中央博：林紀男さん、柏市環境政策課：宮崎さん、澤畑さん、
いであ株式会社：樋渡さん、高橋栞さん
美手連7名
- ・報告／小倉久子

※この調査は手賀沼流域フォーラム調査事業の一環として行ったものです。

2016年11月に、重機により大堀川河口中洲のナガエツルノゲイトウ（以下、ナガエ）駆除を行い、翌年には1か月ごとに3回にわたり、根を掘り起こして、駆除を徹底した。しかしながら、4年後の現在は、駆除の痕跡すら見当たらないほどの大群落に生長したばかりか、オオバナミズキンバイ（以下、オオバナ）がナガエと競合して、繁茂域がより拡大している。

そこで、元々のナガエ群落にオオバナがどのように侵入して、両者がどのように繁茂域を拡げて行ったのかを調べるために、大堀川河口の中洲において、ナガエとオオバナの分布調査を行った。

◆調査した2本のライン◆

ライン①：記念植樹碑 ⇒ 赤色水位計

ライン②：中央階段 ⇒ 高圧鉄塔方向



◆ 2016 年 11 月 25 日の駆除活動開始前



◆ 2017 年 2 月 駆除後の 2 回目の根絶作業後



◆ 2020 年 9 月 17 日の中洲の様子



2016 年はナガエだけであったが、今回はナガエ（黄緑色）とオオバナ（青っぽい緑色）が混在

◆ ナガエとオオバナの区別のレクチャー



調査を始める前に、県立中央博物館の林紀男さんから、ナガエとオオバナの区別方法のレクチャーを受けた。見た目の茎の部分は、けっこう似ている。

◆ 調査ラインの設定



2m ごとにオレンジ色の棒を立てて、メジャーを張る。

◆ライン1◆



ライン1は、黄緑色のナガエと（青みがかった）緑色のオオバナがモザイク状に生えている。



オオバナはあちこちで黄色い花をつけていて、遠くからでも良く目立つ。ナガエのほうも小さな白い花がいっぱい。



中洲のほうから広がってきたオオバナが、
どんどん護岸を這い上がっている。

◆調査の様子



草丈を測る。
この地点は、上から見ると『オオバナ群落』。



オオバナをかき分けると、その下にはナガエが
しっかり存在している。

◆ライン2◆



ライン2 には水面部分も含まれる。



水上部分の草丈測定。水深も測定しているので、足し合わせれば、全体の草丈になる。



こちら、表面（写真右側）は 100% オオバナだが、・・・・。



かき分けて中の方を見ると、ナガエが出て来る。



さらに、根っこの部分は全部ナガエ。
オオバナは周囲から横に広がってきていることがわかった。



中洲中心部のヒメガマ群落の間にも、しっかり入り込んでいた。



ヒメガマ群落の中に入り込んでいるのは、ナガエ。しかし、群落の外側からは、オオバナが押し寄せてきている



ヒメガマ群落内のナガエは、光を求めて、上へ、上へ。最大でなんと、185 cm！でした。

◆調査のまとめ◆

- ・ 2016 年には単一の群落だった大堀川河口のナガエは、機械も使った大規模駆除に加えて、その後に 1 か月ごとに 3 回の継続駆除を行い、根絶を目指したが、4 年後の 2020 年にはナガエ・オオバナの混成群落として大きく拡大繁茂していた。
- ・ 2020 年には以前から繁茂していたナガエに加え、オオバナが加わって、2 種の群落がモザイク状に混じり合っていた。
- ・ 上からはオオバナの単一群落のように見えても、かき分けて見るとナガエが密に生えていた。オオバナが、元々存在していたナガエ群落の外側から侵入して、ナガエに覆いかぶさるように生長し、オオバナ群落のように見えていても、ナガエは細々と群落を維持していた。
- ・ オオバナは、水際の開水面などで、水平方向にどんどん成長して群落を拡大させていた。